

令和 6 年能登半島地震の概要及び職員派遣の状況について

1 令和 6 年能登半島地震の概要

- (1) 発生時刻 令和 6 年 1 月 1 日 16 時 10 分頃
- (2) 震源地 石川県能登地方（震源の深さ ごく浅い）
- (3) 地震の規模 マグニチュード 7. 6（最大）
- (4) 石川県内の震度
震度 7 志賀町、輪島市
震度 6 強 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
震度 6 弱 中能登町
震度 5 強 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、
能美市、宝達志水町
震度 5 弱 白山市、津幡町、内灘町

2 地震による被害の概要（石川県 2 月 8 日発表資料）

- (1) 人的被害
死者 輪島市 103 人、珠洲市 102 人、ほか 36 人 計 241 人
- (2) 住家被害
損壊 輪島市 5, 966 棟、珠洲市 8, 280 棟、ほか 44, 620 棟 計 58, 866 棟
- (3) 避難所の開設状況
 - ①市町 1 次避難所
開設箇所数 輪島市 78 箇所、珠洲市 45 箇所、ほか 142 箇所 計 265 箇所
避難者数 輪島市 2, 352 人、珠洲市 1, 375 人、ほか 3, 527 人 計 7, 254 人
 - ②県避難所
 - ア 1. 5 次避難所
開設箇所数 3 箇所（金沢市、小松市）
避難者数 240 人（累計 1, 365 人）
 - イ 2 次避難所
開設箇所数 237 箇所（金沢市以南のホテル・旅館等）
避難者数 5, 135 人（累計 6, 829 人）

3 被災地支援の枠組み及び業務内容（派遣の詳細については資料1-2を参照）

（1）応急対策職員派遣制度の要請に伴う派遣（総務省）

総務省が輪島市の支援団体として三重県を割り当てたことにより、支援を開始。

ア 総括支援チーム⇒被災市への助言・調整、被災市への被害状況や応援職員のニーズ把握等支援業務

伊勢市に派遣依頼のあった業務の内容（以下、「業務内容」）

⇒災害対策本部運営支援

イ 対口支援チーム⇒避難所の運営、罹災証明の交付等災害対応業務の支援

業務内容⇒避難所運営業務

（2）厚生労働省からの派遣要請に基づく派遣

業務内容⇒1次避難所における健康・衛生管理等業務

（3）緊急消防援助隊三重県大隊としての派遣（消防庁）

業務内容⇒緊急消防援助隊活動

（4）災害時相互応援に関する協定に基づく派遣（（公社）日本水道協会）

業務内容⇒応急給水活動

（5）三重DMAT派遣要請に基づく派遣（三重県）

業務内容⇒DMAT活動拠点本部における本部活動、被災地病院支援

（6）全国被災建築物応急危険度判定協議会からの派遣要請に基づく派遣

業務内容⇒被災建築物応急危険度判定

（7）下水道事業災害時中部ブロックからの派遣要請に基づく派遣

業務内容⇒下水道^{かんきょ}管渠の調査・マンホール内部の調査

（8）災害時相互応援協定に基づく派遣（加賀市）

業務内容⇒2次避難所における健康管理及び事務調整業務

4 今後の職員派遣について

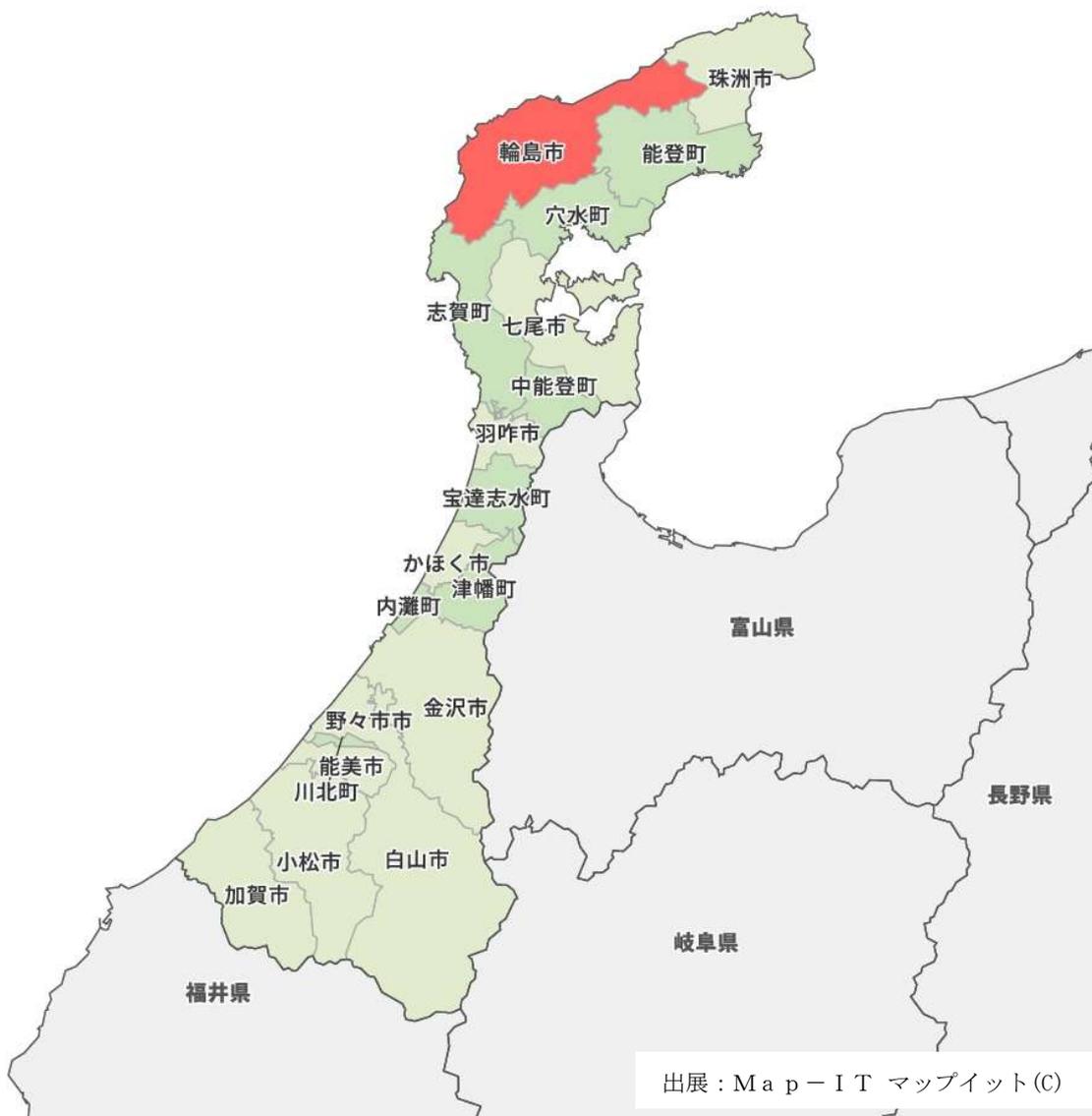
被災地への支援については、今後も継続した取り組みが必要と考えており、国・県等と調整しつつ、引き続き派遣を行う。また、今後は災害廃棄物処理に関する派遣や、技術職員による中長期的な派遣も行う。

【参考】

輪島市の概要（令和6年1月1日現在）

- （1）面積 426.32 km²（伊勢市 208.37 km²）
- （2）人口 23,118 人（伊勢市 120,306 人）
- （3）面積あたり人口 54.2 人/km²（伊勢市 577.4 人/km²）

※輪島市ホームページより



令和 6 年能登半島地震被災地への職員派遣の状況

1 災害対策本部運営支援（合計 5 名）

- | | | |
|----------------------------------|-----|-----|
| ①令和 6 年 1 月 3 日～1 月 10 日（8 日間） | 2 名 | 輪島市 |
| ②令和 6 年 1 月 14 日～1 月 26 日（13 日間） | 1 名 | 輪島市 |
| ③令和 6 年 2 月 7 日～2 月 15 日（9 日間） | 2 名 | 輪島市 |

派遣職員の所感

- ・他団体からの支援の受入体制についてあらためて確認する必要がある。
- ・危機管理部職員の災害対応力のスキルアップが重要。

2 避難所運營業務（合計 6 名）

- | | | |
|---------------------------------|-----|-----|
| ①令和 6 年 1 月 14 日～1 月 20 日（7 日間） | 2 名 | 輪島市 |
| ②令和 6 年 1 月 22 日～1 月 28 日（7 日間） | 2 名 | 輪島市 |
| ③令和 6 年 2 月 3 日～2 月 9 日（7 日間） | 2 名 | 輪島市 |

派遣職員の所感

- ・地元住民が中心となり、適切に役割分担し避難所が運営されており、日ごろから顔の見える関係を構築する地域コミュニティの重要性を再認識した。

3 1 次避難所における健康・衛生管理等業務（合計 1 名）

- | | | |
|---------------------------------|-----|-----|
| ①令和 6 年 1 月 14 日～1 月 19 日（6 日間） | 1 名 | 輪島市 |
|---------------------------------|-----|-----|

派遣職員の所感

- ・避難所における衛生管理、ゾーニングなどを避難者に理解していただくことが重要。
- ・避難者ひとり一人との対話を通じて、地域全体の健康状態を把握・分析し、DMAT、DHEAT など支援チームと連携して予防的活動を実施することが重要。

4 緊急消防援助隊活動（合計 33 名）

- | | | |
|---------------------------------|------|-----|
| ①令和 6 年 1 月 10 日～1 月 14 日（5 日間） | 11 名 | 輪島市 |
| ②令和 6 年 1 月 13 日～1 月 17 日（5 日間） | 11 名 | 輪島市 |
| ③令和 6 年 1 月 16 日～1 月 19 日（4 日間） | 11 名 | 輪島市 |

派遣職員の所感

- ・倒壊建物及び道路状況により活動困難な現場も多くみられました。
- ・この経験を今後の災害に生かしていくことが重要。

5 応急給水活動（合計5名）

- ①令和6年1月2日～1月8日（7日間） 2名 宝達志水町・輪島市・七尾市
②令和6年1月25日～2月1日（8日間） 3名 七尾市

派遣職員の所感

- ・伊勢市の知名度が非常に高いと感じた。被災された方々から逆に元気もらった。
- ・発災時に迅速に対応できるよう応急給水体制の再確認と訓練の継続が重要。

6 災害派遣医療チーム【DMAT】（合計10名）

- ①令和6年1月4日～1月7日（4日間） 5名 七尾市・宝達志水町ほか
②令和6年1月25日～1月29日（5日間） 5名 輪島市

派遣職員の所感

- ・市立伊勢総合病院が災害拠点病院に指定後初めての災害被災地へのDMAT派遣であったが、各拠点本部の指示のもと業務に従事し、無事に遂行できた。

7 被災建築物応急危険度判定（合計1名）

- ①令和6年1月17日～1月19日（3日間） 1名 穴水町

派遣職員の所感

- ・判定業務は全国共通のマニュアルに沿って行うものであり、滞りなく実施することができた。
- ・古く耐震補強のされていない建物の被害が多いと感じた。

8 下水道管渠^{かんきょ}の調査・マンホール内部の調査（合計2名）

- ①令和6年1月12日～1月17日（6日間） 2名 能美市

派遣職員の所感

- ・管渠^{かんきょ}・マンホールの調査には事前に実施していた訓練での経験が役に立った。
- ・日ごろからの各所との関係構築、業務に際しては情報共有、目標の明確化が重要。

9 2次避難所における健康管理及び事務調整業務（合計9名）

- ①令和6年1月25日～1月30日（6日間） 3名 加賀市
②令和6年1月29日～2月4日（7日間） 3名 加賀市
③令和6年2月3日～2月9日（7日間） 3名 加賀市

派遣職員の所感

- ・市外からの避難者を受け入れており、ひとり一人の情報把握、相談しやすい窓口の設置が必要。
- ・受入自治体における医療体制に混乱が生じないように、医療機関をはじめ関係機関との連携調整が必要。

※令和6年2月9日現在 派遣済み職員 延べ72名